炭鉱（ヤマ）の記憶
情報

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団
理事長 吉岡宏高
〒068-0021 岩見沢市1条西4丁目3
そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター
TEL 0126-24-9901 FAX 0126-24-9902
http://www.soratan.com/

No. 022
2022/02/24

2月23日 定期総会を開催

2021年は、昨年に引き続き新型コロナウィルスによる影響で、十分な活動を展開することができませんでした。そのような制約の中でも、今後の展開に向けたチャレンジを行って参りました。

［活動計画に対して：○＝達成 △＝途上 ×＝未了］

■ 報告 2021年 ■

■出版事業

○ブックレット・解説資料の刊行： 2月に、㈱島津興業からの発注により『明治日本の産業革命遺産と鹿児島』をブックレットシリーズの一環として出版するとともに、『《炭鉄港》公式ガイドテキスト』（推進協議会発行）では吉岡理事長がその大宗部分を執筆しました。

△関連資料の制作・公開：《炭鉄港》をコンパクトかつ網羅的に解説するフライヤーは、推進協議会から数種類発行されてきましたが、部数が少なく一般に頒布するには難がありました。そこで、《炭鉄港》を簡潔に説明でき広く頒布するに十分な部数のフライヤーを、2021年度中に発刊すべく作業しているところです。

■炭鉱遺産事業

△コロナ下に対応した新たな形のぷらぷらまち歩きの試行：コロナウィルスの影響によって集合型催事の開催が難しくなったことから、国の誘客多角化事業の一環として実施したWEB番組の中で「ONLINEぷらぷら」3本（幾春別・岩見沢・赤平）を開催し、新たな展開を試行しました。

△奔別立坑周辺の利活用に向けた取り組み： バリケード補修など通常メンテナンスのほか、3月に奔別ホッパー建屋の屋根の一部が積雪で倒壊したことに対応して、7月に会員の協力を得て散乱した部材の後片付けを実施しました。コロナウィルスの影響によって、当初計画していた敷地公開は実施できず、8月に関係者のみで「炭鉱の灯り」を実施、また8月にMC石蔵で展示「奔別炭鉱ホッパーの今・昔」を開催しました。このほか、三笠市ジオパーク協議会の活動（ガイド派遣・受託調査）や三笠市立博物館の人文展示部門の解説文執筆など、気運醸成に向けた活動を継続しています。

■学術支援事業

○歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続：吉岡理事長が㈱島津興業顧問として北海道～鹿児島を月例往復する体制の下で、炭鉄港協議会事業として相互訪問のツアーが実施され、上述したようにブックレットが刊行されるなど、コロナ下においても活発な動きが見られました。

○地域シンクタンクとしての展開： 後述する国の域内連携事業の取り組み、模擬坑道の文化財保全活用計画の策定など、地域シンクタンクとしての機能を発揮しました。

○教育機関との連携： 8月には札幌市で開催されたNIE全国大会（Newspaper in Education：教育に新聞を）の中で《炭鉄港》が特別分科会として特に取り上げられ、10月には炭鉄港協議会事業として空知から鹿児島への中学生の交流授業が展開されるなど、注目を集めた行事にNPOとしても積極的に協力しました。このほか、教育界では《炭鉄港》に対する注目度が次第に向上してきており、出前授業や現地見学添乗・石炭博物館見学など、教育分野での活動が活発化しました。

■市民団体連携事業

○《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・団体との連携：《炭鉄港》の普及活動のため、協議会の活動に貢献するなど、積極的に展開してきました。特に協議会事業「炭鉄港映像の証言」の制作にあたっては、企画・構成・人選などについて全面的に協力し、約45分の本編だけではなく、その素材となった延べ30時間に及ぶインタビュー映像を残すことができました。

○国内外の関係者・団体への対応： マネジメントセンターや石炭博物館に、炭鉱や《炭鉄港》について、取材・問い合わせなど多様なアクセスがあり、これに積極的に対応しました。

■拠点施設事業

○そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実： コロナウィルスによる緊急事態宣言が発出されたため約1.5ヶ月（05/16～06/20、08/27～09/12）の臨時休館を余儀なくされたことや管内を巡る人の動きが鈍化したことから、2021年1～12月の入館者数は2,785名（2019年4,998名・2020年4,243名）と大幅減少となりました。
一方で、建物柱補強や石蔵床張をして頂いたことや電気系統更新（当NPO施工）によって、環境と安全性が向上しました。国の誘客多角化事業・域内連携事業ではツアー起終点・WEB番組の送出拠点・広域事業事務局など、炭鉄港協議会事業では催事会場となるなど、新たな機能の発揮が試行されつつあります。

×会員による運営支援の試行： センターの運営（特にカフェ部門）に、会員の協力を仰ぐことを計画していましたが、コロナウィルスへの対策面から今期の実施を断念しました。

■ヘリテージツーリズム事業

○誘客多角化事業： 昨年獲得した国（観光庁）の誘客多角化事業（20百万円 10/10補助）によって、夕張市・美唄市・三笠市・東武トップツアーズ・空知総合振興局で、WEB配信・新たな形態のツアーや必要なコンテンツの整備など、ポストコロナ時代を見据えたツーリズムのコンテンツづくりを試行しました。
この中で、WEB配信はコロナウィルスの影響を受けにくい形態として注目されたことから、新たに国の補助事業を申請し、域内連携事業（13百万円 10/10補助）を獲得しました。空知信用金庫もコンソーシアムの一員に加えて、WEB番組「炭鉄港ONLINE」を中心に多様な人の参画と新たな形態のチャレンジを試行しています。

○鹿児島との相互交流事業：前述した通り、コロナウィルスの流行期間の合間を衝いて、北海道と鹿児島との相互交流を行いました。

■石炭博物館事業

○**指定管理業務の着実な実施**：2021年シーズンは、コロナウィルスによる緊急事態宣言が発出されたため約1.5ヶ月（05/16～06/20、08/30～09/17）臨時休館となったことや夕張リゾート破綻による影響から、入館者数は9,425人と1万人をわずかに割り込みました（1階無料展示だけで帰る無入館を含めた来館者数は10,195人）。2020年から継続している環境整備の取り組みや、理事（大橋・石川・酒井・熊谷・平野）による交替助勤体制が定着し、指定管理業務を着実に実施する体制がさらに強化されました。

○**博物館の質的充実に向けた展開**：特別展の高度利用（WEB番組への展開、常設展との関連性誘導）や、来館者満足度を最も高めているドラムカッター実演運転の解説員多様化、収蔵庫の史料活用（展示・貸出・バックヤードツアー開催）など、質的充実に向けた取り組みが動き始めました。

○**模擬坑道再建に向けた支援**：財政再生団体である夕張市が模擬坑道を再建するためには、国・道の財政的支援が不可欠な状況にあります。模擬坑道は、国の登録有形文化財に指定されており、補助事業を導入するためには、文化財保全活用計画の策定が必須条件となります。2022年度事業実施のためには、2021年12月までに同計画が完成している必要がありましたが、夕張市教委には計画策定の知見・経験がないことから、年内完成は非常に困難な状況でした。夕張市教委との良好な関係を構築している中で、当NPOとしてはこの状況を看過できず、シンクタンク・コンサルタント経験者が多数在籍している当NPOの特質をもとに積極的な協力を申し出て、約2ヶ月という短期間で同計画を策定する支援活動を実施しました。

■会務

△**会員サービスの充実**：コロナウィルスによって会合型のサービスが展開できないという制約がある中で、一般では容易に入手できない刊行物（炭鉄港公式ガイドブック）の頒布やグッズの割引販売（立坑手ぬぐいなど）を行いました。

×**企業賛助会員の拡大**：コロナウィルスによる影響の対応に追われ、具体的な成果を出すことができませんでした。

△**新たな経営戦略と運営体制の検討**：コロナウイルスの動向に不透明感があることから、成案を得るまでに至りませんでした。模擬坑再建の進捗や《炭鉄港》日本遺産後の見通しを踏まえて、引き続き継続的に検討を進めます。

■ 財務諸表 ■

■2021/12/31の財務状況

科目		2020決算	
資産の部			
流動資産	現預金	15,696	北洋銀行普通預金など
	売掛金	0	
	棚卸資産	248	販売用書籍
	前払費用	4,731	前払家賃・域内連携
	立替金	381	石博模擬坑電力料
	仮払金	678	消費税中間納付
	小計	21,734	
固定資産	固定資産	1,781	除雪機・書庫設備など
	減価償却累計額	▲1,439	
	敷金・出資金	100	事務所敷金 信金出資金
	小計	442	
	資産合計	22,176	
負債の部			
未払金		2,263	電力料、法定福利費
未払費用		390	石博除雪
短期借入金		13,400	信金から域内連携事業
	負債合計	16,053	
正味財産の部			
前期繰越正味財産		7,209	
当期正味財産増加額		▲1,086	
	正味財産合計	6,123	
負債および正味財産		22,176	

単位：千円

○**会員数**：[2021年12月末]総数=344名（昨年末339名）、運営会員=51名（同52名）、一般会員=269名（同263名）、賛助会員=24社団体（同24社）、[動静] 入会=25名（同16名）、退会＝会費滞納整理10名＋8名（会費滞納整理21名+退会26名）、種別変更=1名（同0名）

■活動計算の2021年決算・2022年予算

科目		2020決算	2021予算
経常収益			
	受取会費	2,101	2,300
	寄付金	197	100
	事業収益	27,097	24,000
	補助金	19,932	14,500
	その他	960	0
	経常収益計	50,287	40,900
経常費用			
事業費	人件費	12,895	13,000
	出版事業	879	200
	ツーリズム事業	21,070	13,500
	遺産保活事業	221	200
	学術支援事業	1,711	1,000
	市民連携事業	890	500
	拠点施設事業	1,587	1,800
	石炭博物館事業	9,156	9,000
	その他事業	277	0
	小計	48,686	39,200
管理費	人件費	300	300
	その他経費	2,170	1,200
	小計	2,470	1,500
	経常費用計	51,156	40,700
当期正味財産増加額		▲869	200
一法人税・住民税・事業税		217	165
前期繰越正味財産額		7,209	6,123
当期正味財産		6,123	6,158

単位：千円

■ 計画 2022年 ■

■出版事業

○関連資料の制作・公開

■炭鉱遺産事業

○コロナ下に対応した新たな形のぷらぷらまち歩きの展開
○奔別立坑周辺の利活用に向けた取り組み
○教育機関への炭鉄港の普及促進（特に教員に向けた施策）

■学術支援事業

○歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続
○地域シンクタンクとしての展開

■市民団体連携事業

○《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・団体との連携

■拠点施設事業

○そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実
○会員による運営支援の試行

■ヘリテージツーリズム事業

○国庫補助事業「域内連携事業」の取り組み
○幌内鉄道全通140年・室蘭線開通130年の取り組み

■石炭博物館事業

○指定管理業務の着実な実施
○博物館の質的充実に向けた展開
○模擬坑道再建に向けた支援

■会務

○会員サービスの実施
○企業賛助会員の拡大
○新たな経営戦略と運営体制の検討

人事異動

2021/04/01 ▷石炭博物館フロントマネージャー／長澤佳子▷雇用更新／西田信夫（事務局員＝夕張、2022/03/31まで）
2021/04/10 ▷新採用／後藤さゆり（事務局員＝岩見沢、2022/03/31まで）